

Column 知財の国際舞台から

Vol.31 「クリエイターによる、クリエイターのための」

WIPO 事務局長補 夏目 健一郎

1. 40年ぶりの再結成

かつて世界中を席捲したスウェーデンのポップグループABBAが40年ぶりに再結成するとニュースを知り、思わず新曲のビデオクリップをネット上で視聴してしまったと言えば世がばれると言われてしまうかもしれない。

2. ABBAとWIPO

実はWIPOとABBAは縁が無いわけではない。音楽業界のクリエイターたちが適正に報酬を得られることを目指し、そのために知的財産を含めた教育とサポートを提供しているMusic Rights Awareness Foundationという財団があるが、ABBAのメンバーの一人、ピョルン・ウルヴァース氏はこの財団の共同創始者である。

WIPOは著作権分野でも種々の活動を展開しているが、ウルヴァース氏のように実際にクリエイターとして活躍されている方々が、クリエイターの方々に分かる言葉でメッセージを発してもらえればより効果的である。そのような背景もあり、Music Rights Awareness Foundationと共に世界中のクリエイターのための新たなプラットフォームとして「WIPO for Creators」が創設された。この官民連携は、日本音楽著作権協会（JASRAC）を始めとする日本の著作権関連団体も加盟する世界的な非営利のNGOの著作権協会国際連合（CISAC）をはじめとして出版、写真、作家、実演家といった様々な分野の国際団体がパートナーとなっている¹。

3. 知りたいことを即解決

WIPO for Creatorsはクリエイターの方々の知的財産権や権利マネジメントの実際についての知識を高めることを目指している。クリエイター達が知財についての理解を深めることにより最終的に彼らの創作物に対してしっかりと価値が得られるようにできることを目指す。そのためには、これまでの伝統的な教材の枠に縛られず何が本当に役に立つのかを考える必要がある。つまり、知財関係者にだけ通じる言葉で語るのではない。クリエイターが分かる言葉で伝える必要がある。だから、ウルヴァース氏のような本物のクリエイターの方々の協力がカギになる。クリエイター主導でコンテンツを作成する。

そしてアプローチも教室の授業をビデオに撮ってそれを見て学びましょうというものではない。クリエイティブ業界の各方面から一線のクリエイターたちをフィーチャーした短時間のビデオ教材をオン・デマンドで視聴できるようにする。これも座学のような「お勉強」的なものではなく、クリエイターの方々が実際に創造する過程で出てくる具体的な質問に対してすぐ答えられるような内容を考える。実際のビジネスのやり方は国によって異なることもあるので、地域に特有な観点も現地の専門家の協力を得ながらカバーしていく。

1980年代から90年代に生まれた世代のミレニアル世代、更にはその後のZ世代といった

層は、学びも含めて情報へのアクセスはもはや伝統的な手法にとどまらない。何かを学ぶのにわざわざ教室で机に向かう手間はかけないし、e-learningであっても必ずしもPCの前に座ってディスプレイに対峙するわけでもない。デジタル・ネイティブのクリエイターたちには空いた時間に今すぐアクセスできるコンテンツがマッチする。だから「マイクロ・ラーニング」という手法を取る。スマートフォンに代表される携帯端末と高速ネット接続を踏まえれば、マイクロ・ラーニングの手法を取ることはむしろ当然の帰結かもしれない。学びに対するアプローチは講座ではなくリソースを提供するという形にシフトしている。日々の空いた時間に教材にアクセスし、WIPO for Creatorsのプラットフォームから必要な情報をリアルタイムで得て、問題を即解決できるようにする。WIPOはクリエイターの方々を必ずしも十分に支援できてこなかったかもしれないが、こういった新たなアプローチによりクリエイターの方々をより効果的にサポートできればと考えている。

クリエイターといった場合、音楽、文学、オーディオビジュアル、演劇など様々な分野があるが、最初のターゲットとして音楽業界を対象にプラットフォームを構築する。このプラットフォームにクリエイターの方々には無料でア

カウントを作ってもらい、必要な時に必要な場所でコンテンツにアクセスしてもらえ。コンテンツが実際にプラットフォームに乗るのはこれからであるが関係者が現在鋭意取り組んでいる。

4. これからのクリエイターたちのために

オリンピックより長い周期で5年に1回開催されるショパン国際ピアノコンクールが1年延期されて今年6年ぶりに開催された。世界的に活躍する数々のピアニストが過去の実績者に名を連ねるその大会で日本の反田恭平さんが2位、小林愛実さんが4位とダブル受賞の素晴らしい快挙が果たされた²。また同じく1年延期されていたジュネーブ国際音楽コンクールのチェロ部門で上野通明さんが日本人初優勝に輝いた³。これから世界を舞台に活躍される音楽家の方々を含めて、世界中のクリエイターに貢献できるツールとしてWIPO for Creatorsが活用されることを願っている。

¹ https://www.wipo.int/pressroom/en/articles/2021/article_0005.html

² <https://chopin2020.pl/en/news/article/437/the-winner-of-the-18th-chopin-competition!>

³ https://www.concoursgeneve.ch/section/2021_cello-1

NATSUME, Ken-ichiro (WIPO 事務局長補)

日本国特許庁にて審査官、審判官としてエレクトロニクス、コンピュータ関連の審査、審判業務に携わる。その間、カリフォルニア工科大学客員研究員、特許庁国際課、総務課、調整課審査基準室、外務省経済局、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部などにおいて、特許行政、国際交渉にも従事。2012年にWIPO日本事務所所長に就任し、PCT国際協力部長、PCT法務・国際局上級部長を経て、2021年1月から現職。